

磐田市平和祈念式「平和への想い」

平成27年8月15日 磐田市民文化会館

僕は八月五日と六日に、広島平和記念式典小中学生派遣団の一員として広島市を訪れました。一日目に僕たちは安田女子高等学校と平和記念公園、そして原爆資料館を訪れ、最終日の二日目には平和記念式典に参加させていただきました。

まず、一日目の最初に訪れたのは安田女子高等学校でした。安田女子高校では、慰霊碑と被爆桜を見学しました。なぜ高校に慰霊碑があるのか、僕はその意味がわかりませんでした。しかし、調べていくうちにいろいろなことがわかりました。安田女子高校では職員と生徒が原爆を投下される直前まで建物疎開を行っていたそうです。そのため、作業にあっていた安田五一理事長ほか三百二十八人もの尊い命が原爆によって一瞬にして消えてしまいました。慰霊碑には亡くなられた人たちの名前が彫ってありました。その周りには千羽鶴が奉納されていました。千羽鶴に込められた平和への想いを感じることができました。

また、安田女子高校では被爆桜と呼ばれるソメイヨシノを見学しました。被爆桜とは爆心地から2.1キロの場所で被爆し、現在もなお咲き続けている桜のことです。ソメイヨシノの寿命は六〇年から八〇年といわれていますが、この被爆桜は現在、樹齢八〇年以上なのだそうです。僕が見た限りでは普通の桜と似ており、とても年老いているようには見えませんでした。しかし、実際は弱ってきているようで、安田女子高校では苗木を作って全国に届ける活動をしているのだそうです。磐田市にも被爆桜の苗木が小中学校に届けられ、大切に育てられています。被爆桜に込められた平和への想いが磐田市にも伝わればいいなと僕は思います。

次に、平和記念公園に行き、原爆ドームを見てきました。原爆ドームは今すぐにでも崩壊しそうです。原爆の悲劇を強く感じ、この先もこの原爆ドームは残しておかなければならないと思いました。そして、公園の中にある原爆の子の像を見学し、鐘を鳴らしました。原爆の子の像について僕なりに調べてみました。すると、この像のモデルは二歳で被爆した佐々木禎子さんという少女で、十年後に白血病と診断され八か月の闘病生活の後、死を迎えたということです。そしてこの像は、禎子さんの同級生らによる募金活動によって造られた像だということがわかりました。周りには安田女子高校にもあった千羽鶴がたくさん奉納されていました。一つ一つ丁寧に折っており、

千羽鶴に込められた想いを感しました。

平和記念資料館では、放射能を浴びた人の写真や焼け焦げた弁当箱、そして広島型原爆リトルボーイの模型など、たくさんの資料を見学しました。中でも、懐中時計や亡くなった方々の爪や髪の毛が原爆投下当時から現在まで残っていることに驚きを感じ、強く印象に残っています。そして何よりも全身火傷を負った方の写真を見ると、原爆の恐ろしさや悲惨さを強く感じ、多くの人々の命を奪った戦争はもう二度と起こしてはいけなと改めて思いました。

二日目は、平和記念式典に参加しました。式典は国内の人の他に外国の方々もたくさん参加していました。多くの方が、平和の世の中を願っていることを知ることができたので良かったです。そして今年には終戦七〇年ということもあり、百か国もの国の方々が参列していることに驚きました。しかし、今もなお世界のどこかで戦争は行われています。戦争をやって何か良いことがありましたか？ 僕は何もないと思います。戦争は人の命を簡単に奪ってしまうものです。そんな戦争を今現在行っている国、これから「戦争」でものごとを解決しようと考えている国は、もう一度考え直すべきではないでしょうか。僕はかつての日本のような悲惨な歴史を繰り返したくないです。今、僕たちが平和に暮らしていることは当たり前のことではありません。争いのない平和な世界を作るのは、決して簡単なことではありません。しかし、あきらめたら終わりです。そのためにも、戦争を知らない僕のような若い世代の人たちにも、昔何があったのかを、しっかり伝えていかなければならないと思います。僕はこれからも平和な世の中であり続けてほしいと願っています。そのためには、世の中で起こっていることについてたくさん勉強して、正しい知識や判断力を身につけなければいけないと思います。そして戦争でお亡くなりになられたすべての人たちの分も、僕は精一杯生きていきます。

最後に、すべての人々が安心して暮らすことのできる平和な世界になることを願うとともに、過去の戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

磐田東中学校 3年 阿部 史希